

# 障がい児保育についての提言書

令和4年12月

阿見町議会

はじめに

近年、障がい児保育のニーズは年々高まっており、障がい児本人のケアはもちろんのこと、保護者や家族全体への支援が重要となってきた。また、個々に応じた保育の充実が望まれるが、支援をする保育士の数が十分ではないことから、保育士確保のため処遇改善も喫緊の課題となっている。

今後、各課が連携し、地域社会全体で子どもの健全な環境整備するために、予算を拡充し、障がい児保育の充実を図ってほしい。

### 1. 障がい児保育の現状と課題

阿見町の障がい児の保育所入所については、本来個々の特性に応じ安全確保の面からも加配保育士の配置が必要だが、必要な保育士について直ぐに確保することは難しく、随時募集している状況である。

入所申し込みにあたっては、保護者の希望を丁寧に聴き取り、できる限り希望に添えるよう調整している。

住民からは「分離型認可保育園の設立及び障がい児保育行政の拡充を求める請願」が提出されていることから、現在障がいを持つ子どもの保育体制について、調査・研究中である。また、現在、(仮称)子育て支援総合センターの設置に向けた協議を開始しており、「障がい児の相談・支援」の機能を持たせるよう検討している。

### 2. 調査方法

担当職員のヒアリングを行い、町民懇談会など現場の声を調査した。他市町村との比較し参考にするため、元麻布保育所への視察を行い、医療的ケア児、障がい児の保育の在り方を再考した。

### 3. 調査結果

現在、保育士の加配が難しいことから、障がい児の対応が充実しているとは言えない。障がい児保育については、専門家は町にはおらず、年に一度一名ずつ研修会に参加している。その研修内容をほかの保育士と共有するための勉強会もとってあるようだが、時間の制約もあり十分な共有には至らない。

現在(仮称)子育て支援総合センターの設置に向けた協議を開始しており、「障がい児の相談・支援」の機能を持たせるよう検討を行っていく考えのようだ。保護者を含めた支援については、新しい子育て支援のセンターがこれからどのように機能を充実させられるのか、十分に協議していく必要がある。

そこで以下の4点を提言する。

## 4. 提言

### 提言1 保育士の処遇改善と確保の工夫に力を入れること

発達障害等は年々増えており、今後、障がい児保育はさらなる充実が必要だが、保育士不足は全国的にも課題となっている。そのため必要に迫られた自治体では、保育士の確保に力を入れている。例えば千葉県野田市では、野田市の保育士の待遇の良さと魅力を随時発信している。

待遇面を改善し、阿見町で保育士になるといかに仕事として充実するか、それを発信していく工夫が必要ではないか。保育士の処遇改善を大きく変えていき、全国にも発信させる手段を講じること。また、国への公定価格の改善や地域手当の改善を求めること。

### 提言2 保護者が働きやすい環境を作り負担軽減と子どもの安定を図るため、短期入所や一時預かりなど、安心して預けられる施設の充実を図ること

現在ある施設では、保護者の急病等やむを得ぬ理由で短期入所を利用する場合を想定して1～2床のベッド数は確保してあるようだが、すぐに予約が埋まってしまい急な保護者の都合に応えられないのが現状のようである。有事だけでなく保護者の一時休息や仕事の都合などでも、気軽に利用しやすい場所が必要である。

### 提言3 専門の相談窓口を設置すること

保護者の不安を少しでも軽減するための相談窓口として、予算を拡充し専門家を配置し、保育士が安心して本来の仕事ができるよう配慮していくこと。各課の連携もしっかりと図ること。

(仮称) 子育て支援総合センターや児童発達支援センターの設置の早期実現に向け、いつでも現場の声を確実に受け止められる体制を整えてもらいたい。

### 提言4 分離型保育を設置すること

分離型保育は、障がい児クラスを別教室に設けることで、その時の活動内容や本人の体調によって、健常児クラスと行き来し流動的に利用することができる。健常児は、人を気遣う気持ちや障害を持つ人を自然と理解することを学び、障がい児は、健常児から刺激を受け社会性を身に付けることができる。今までの統合保育では、健常児の通常保育に加えて、受け持った障がい児に対して適切な支援をしなければならず、担任保育士の負担は大きい。しかし、障がい児クラスを設け、知識や経験がある担任を配置することで、役割を分担し負担の軽減となる。これにより、障がい児の受け入れ人数を拡大することもでき、保育従事者、利用者にとっても、双方の利益になると考える。